



# 学校だより

令和3年2月26日

射水市立作道小学校

192号

## 成長の過程を大切に

2月6日（土）の授業参観は、「学習活動発表会」と銘を打ち、今回は子供たちの成長の過程に重点をおいてご覧いただきました。従来とおりの学習発表会とは異なり、子供たち自身が考えたセリフや内容を発表しました。中には完成度のあまり高くない発表もあったかもしれませんが、子供たちが自ら考え、工夫して取り組んできた過程は、お伝えできたのではないかと思います。下記にその一端を紹介します。



### 【1年生：こんなことができるようになったよ集会】

1年生にとっては、グループ活動そのものが難しく、自分たちで進めることに随分苦労していましたが、準備を進めていく過程で、役割が明確になり、自分の役割を果たす大切さを学んでいきました。発表内容は、なわとび、マット運動、音読、合奏と多彩で、どの子も自分ができるようになったことを一生懸命発表していました。中には、掃除の雑巾がけも含まれていて、小学校に入学したからこそできるようになったことは、学習の他にも多くあることを改めて子供たちから教えてもらった気がします。

### 【2年：みんなの きらきら集会】

2年生は、国語、算数、体育、図画工作、音楽等の教科ごとのグループに分かれ、できるようになったことを発表しました。音読やかけ算九九、なわとび、絵などについて紹介した後、感想タイムがありました。日頃から「きらきらと光る、友達のよいところ」をたくさん見付けている子供たちだけあって、次々と挙手をして、自分の感想を述べる姿にも成長を感じました。



### 【3年：ぼくたちの学びを伝え合おう】

3年生の子供たちは、一年間学習してきた内容から更に調べたいことを自分で選んで調べ、個人やグループで発表しました。発表の最後にはどの班にもクイズがあり、聞き手を楽しませる工夫も見られました。発表当日に向けて自分たちだけで、何度も何度も練習する子供たちの姿が随所に見られたり、準備や片付けを手早く行ったりなど、この学習の過程で随分と自主性が育ったと感じています。また、感想もしっかりと伝え合い、表現力にも成長が見られました。



### 【4年：届けよう、自分たちの思い】



最初に2分の1成人式をステージ発表で行いました。どの子も自分にしか言えないセリフを堂々と発表している姿が素敵でした。担任が準備したよびかけではなく、自分たちの手で考えたセリフであることが伝わってきたからです。その後、グループに分かれ、環境について調べた成果を発表しました。「地球のために何か自分にできることがしたい」との思いが感じられる、一生懸命な姿が嬉しかったです。

### 【5年：委員会活動を4年生に紹介しよう】

5年生は、次年度から委員会にはじめて参加する4年生に向けて、分かりやすく活動内容をまとめ、紹介することを計画しています。当日は、その練習段階をご覧くださいました。一年間、各自の委員会に一生懸命携わってきたからこそその思いも垣間見られ、高学年としての一年間の営みが伝わってきました。発表後には少し付箋を書く時間を発表グループの方で設け、相手の動きを見て次の発表を始めていました。担任の指示がなくとも相手を察して待つことも、ここでの大切な学習の一つになっているように感じました。



### 【6年：Future & Memory ～伝えよう 今の自分～】



これまで行ってきた職業調べの結果をグループで紹介し合いました。将来を見据えた次のステージ発表とも関連した内容で、一人一人の興味関心がどこにあるのかを知る、よい機会となりました。グループ発表に入ってから担任の指示は全くなく、発表→付箋への記入→感想の紹介→発表者の交代→終了後、集合場所へ集合→振り返りカードの記入と、子供たちが動きをよく理解して自主的に動いている姿が見られ、流石に最高学年だと感心しました。その後のステージ発表も素敵で、大いに盛り上がり終えることができました。

## <いのちの重さ>

最近、子供たちの様子を見ていて気になることがあります。それは、「いのちの重さをどこまで認識しているのだろう」ということです。子供たちの大好きなゲームの中では、登場人物が何度も生き返ったり、簡単にリセットしたりすることができます。ゲームに夢中になるあまり、「死ね!」「ぶっ殺すぞ!」といった、思わず顔をしかめってしまうような言葉を発しながらプレーしている子供がいるとも聞きます。皆様のご家庭ではいかがでしょうか。子供たちに現実と架空の世界との区別はついていないのでしょうか。

また、本校でもスマートフォンの所持率が増加傾向にあり、YouTube や SNS 等、子供たちの間には様々な情報が溢れ返っています。その中には残念ながら、子供たちの健全な心と身体の成長の妨げとなる内容もあるように思われます。その危うさは「運転免許を持たないドライバーが運転をしているようなものだ」と例える人がいるほどです。先日の避難訓練の機会にも「テレビやネットで行われていることが、全てよいこととは限らない。自分で考えて判断してほしい」と子供たちへ伝えました。

いかがでしょうか。お子さんは、自分のいのちも友達のいのちも大切に思う気持ちを持ち、大切にしているのでしょうか。

私が3歳だったときに、祖母が亡くなりました。そのときの祖母の亡骸にすがって泣く母の姿や納骨で骨を拾ったときの情景は幼な心にも強烈で、今でも鮮明に覚えています。それからしばらくの間、夜になると「どうして人間は死ぬの?」と母に問いかけながら悲しくて泣くことが続いたことも覚えています。幼い子供に人の死を見せることには賛否両論があると聞きますが、私は今では感謝しています。人のいのちの重さをそこで心に刻むことができたと思うからです。

子供たちには是非、他人の痛みが分かる大人になってほしい。自他のいのちを慈しむことができる大人に成長してほしいものです。